関東菊花大会の歴史



「菊のながめ」は大正１５(1926)年、現在のながめ公園にあった「ながめ」という料亭が、食事に来るお客さんに花も楽しんでほしいと菊や牡丹を展示したのが始まり。１０月～１１月の菊の時期には、菊花壇を設置し菊人形を展示していた。

また、大間々には古くから菊の愛好会があり、戦争のために一時途絶えてしまったものの、戦後、再興してできたのが「大間々菊華会」(現在のながめ菊華会)であり、現在も活動が続いている。

そして、昭和３３(1958)年ごろに、現在の菊花大会の始まりである「第１回関東菊花大会」が大間々駅前及び大間々町内で開催される。当時の出展数は200点程度であったが、現在と同じような部門の菊が出品されていた。

平成元(1989)年の「第32回関東菊花大会」で会場が現在のながめ公園に移り、現在の関東菊花大会のかたちとなる。菊人形も引き続き大会において展示され、水戸黄門や大岡越前、国定忠治など、これまでには様々な作品が展示されてきた。

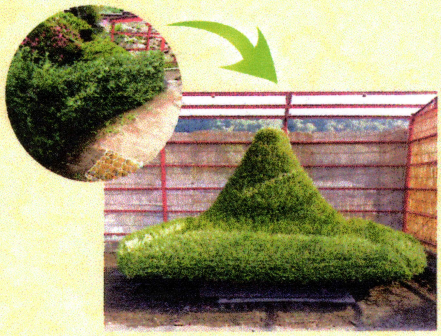
菊栽培年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①挿し芽・育苗				開花調整		③開花		加湿・加温調整			
	②誘引・整枝										



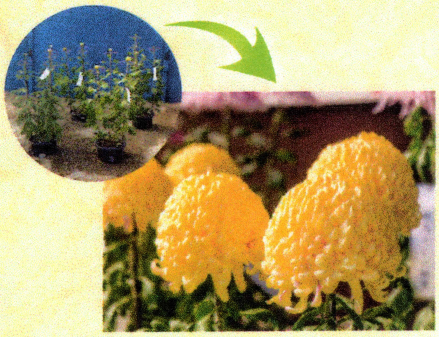
❶挿し芽・育苗

春(5月～6月頃)、親となる菊から勢いの良い元気な若芽を5～6 cmほど切り取ります。これを土に挿し、大切に育てることで、親と全く同じ性質を持つ新しい株にするのが「挿し芽」です。



❷誘 引

菊の茎が伸びるのに合わせ、支柱(竹や針金)に麻紐などで結びつけ、形を整えていく作業のことです。



❸開 花

菊は他の花に比べて非常にゆっくりと咲き進みます。蕾から咲き始め、完成された形になるまで約3週間から1ヶ月。そのため、大会期間中に何度も足を運ぶと、日ごとに花びらが増え、盛り上がっていく様子を楽しむことができます。

ながめ菊華会会員募集中!

※詳細は0277-76-1270(みどり市観光課)まで

ここが見どころ! 競技花「国華金山」の観賞術



今年、名人がこぞって技を競い合うのが、黄金に輝く「国華金山」です。
観賞のポイントは、その「止まり」の美しさ。厳しい基準を乗り越えた「特選」の一鉢。その圧倒的な完成度に、きっと言葉を失うはずです。

花の盛り上がり
中心部が高く、完璧なドーム状に盛り上がっているか。

色 艶
濁りのない、眩しいほどの純黄色を保っているか。

足元の葉
花だけでなく、根元の葉まで一枚も欠かさず青々と茂っているか。

墨田区にながめの菊を展示します!

「すみだ五彩の芸術祭」の共催企画として、関東菊花大会で飾っているみどモス、五重塔(小)、その他数点を展示します。ながめの菊をみどり市以外で観られるのはここだけ!
この機会にぜひお出かけください!

会場:墨田区立あずま百樹園 東京都墨田区文花1丁目19-4
期間:10月中旬 ～12月上旬(予定)

すみだ五彩の芸術祭HP

すみだ五彩の芸術祭 SUMIDA ART FESTIVAL

